



みらいつうしん

11月号

2020年11月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子

さまざまな体験を通して

秋の紅葉が美しい季節になりました。両手を広げて空を見上げて深呼吸すると、とてもさわやかな気分になります。子ども達も元気いっぱい園庭を走り回って遊びを満喫しています。

さて、今年の運動会は、年中長組のみ、クラスごと園庭で行いましたが、台風の影響で、1日遅れの開催となりました。当日の朝は、まだ小雨がぱらつくといった天候で心配していましたが、皆さんの気持ちが天に届いたようで、にじ組の開催時刻になると、お日様まで顔を出し、有意義な運動会になりました。「4歳児は親子で楽しく体を動かそう」「5歳児はみんなで作り上げる運動会にしよう」をテーマに、子ども達が一生懸命取り組む姿は、とても生き生きとしていて、どの子も成長を感じられました。特ににじ組さんは、一人一人の思いを伝え合い、係を決め、運動会の内容、ライン引き、音響、進行など、子ども達が力を出し合って準備してきました。その成果が当日見事に発揮され、担任をはじめ、応援に来てくださった保護者の方にも感動を与えてくれました。子ども達も、今まで以上に達成感を感じ取っていて誇らしげな表情でした。この「友達と力を合わせる大切さ」「やればできるという自信」をこれからも持ち続けて欲しいと思います。

園庭で育てているサツマイモ掘りは、10月16日に行いました。まず、にじ組さんが飛び込むように畑に入り、たくさん茂ったつるを引っ張りました。すると、あちらこちらから「あった！あった！」「すごーい！でっかい」と声が上がり、体中真っ黒になってお芋を収穫しました。その様子を見ていた他学年の子ども達も、にじ組さんに負けまいとやる気満々で畑に入り、お芋掘りを楽しんでいました。中には、お芋よりもツルを使って王冠やリースを作る子や畑の中から出てきた幼虫、カエルなどに興味を示す子もいて、お子さんの感性はいろいろだなと思わず笑みがこぼれました。今年のお芋は天候の関係からか、余り大きいものはありませんでしたが、色つやが良く、100本ほどのサツマイモが収穫出来ました。後日、お芋をふかし、にじ組さんが「おいもやさん」を開き、全学年美味しくいただきました。

ほし組さんのお弁当遠足は、雨のため中止になりましたが、遠足の前に何回か園周りを散歩し、後日、新城高校までどんぐり拾いに出かけました。園庭でお弁当は食べられませんでした。園外活動の体験ができたので良かったです。そら組さん、にじ組さんは、学年の発達に合わせて内容を考え、楽しい遠足が実施されました。私は、にじ組さんの遠足に同行しました。水筒をもって友達と手をつなぎ、いざ、街探検に出発！！今回は、あらかじめ、地図を見ながらコースを子ども達が話し合っ決めて、グループ分けもしておいたので、より一層ワクワク感が増しました。オリエンテーリング形式の園外散策でしたので、ポイントを見つけると「あった！」「俺って天才」などと言って、担任からシールを貰って喜んでいました。また、マンホールに意外に興味を持ったようで、見つけると大興奮していました。約2時間歩き続け、「お腹空いた！早くお弁当食べたい」「もう歩きたくない」と、弱音を吐く子もいましたが、無事みらいこども園まで帰ってきました。たくさん歩いた後は、お楽しみのお弁当タイム。どの子も手作りの弁当を美味しく食べていました。「今日の遠足は最高！楽しかった」「毎日遠足いけたらいいのに」と嬉しいコメントも出て子ども達の満足度が伝わってきました。日頃とは違った子どもの姿も見られ、保育者も学びの一日となりました。

このように、学年やお子さんの興味関心によって、人と関わる体験活動から学ぶものは違いますが、体験したことは、知恵として生まれ変わり次への意欲につながります。失敗と成功を繰り返し積み重ねることで自信を持つことができるので、私たち保育者も幼児期の体験活動は人間形成の基礎としてとても大切なことと肝に銘じて、一人一人に寄り添っていきたくと思います。

